
~ 熱血！！ 武田道場！！ ~

武田軍兵士 清坂 剣麻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「熱血!!! 武田道場!!!」

【コード】

N9114X

【作者名】

武田軍兵士 清坂 剣麻

【あらすじ】

武田道場……それは熱き漢達が集う甲斐武田軍の武将を鍛え上げる道場なのである!!!

戦国BASARAの他に、とあるシリーズ他多作品クロスでもあります。

序章（前書き）

それでは始めます！！

序章

第一幕 まずは自己紹介と内容説明

甲斐（今の山梨県辺り）武田領のさる場所に・・・熱き漢達を鍛え上げる道場が存在する。

・・・その道場とは・・・、

『武田道場！！』

なのである。

信玄「とう道場によくぞ参った。 儂がとう道場最高責任者であり師範でもある武田軍総大将 武田信玄じゃ！！！」

幸村「とう道場が一番弟子！ 天ッ！ 覇ッ！ 絶・槍！！ 真田

幸村・・・見・参！！！」

劍麻「とう道場が二番弟子にして作者である清坂劍麻と申しまする！！！」

美琴「いつの間にか弟子にされてた御坂美琴です・・・ってコレ前にもやらなかったけ？」

佐助「とう道場が門下生、猿飛佐助！・・・ああ恥ずかしい」

美己「アシスタントをしています御坂美己ですっとミサカは自己紹介を行います」

「それとミサカはミサカ10032号ですっとミサカは補足説明

します」

剣麻「では内容説明をさせてもらいます。まずこの武田道場、オマケコーナーから繰り上がり本日より投稿いたします。故に！」
「とある武将の戦国乱世」の方以外はやりませんゆえ、ご了承ください
れ」

幸村「次にッ！！ 主な内容は、某達の修行や短編、ゲストとの会話などを中心に行ってていく事になりますうううッ！！！！」

信玄「うむ！ 本日はここまでじゃあッ！！！！」 最後に、この道場主である『戦神霸王』武田信玄が一括した。

美琴「ちょ、短ッ！？ まだ他に言うことないの！！」

美己「始めはだいたいこんなもんでしょっつとミサカは述べます」

序章（後書き）

頑張っ て行きたいので、他作品もろとも応援してくださいー！

第一幕 組み手は同じ技量の人とやりましょう(前書き)

剣麻「まだまだ未熟故、指摘、アドバイスなどが有りましたら、遠慮なく言ってくださいね!!」

第一幕 組み手は同じ技量の人とやりましょう

『第一幕 組み手は同じ技量の人とやりましょう』

甲斐武田領にある武田道場。そこは熱き漢達が集つ甲斐武田軍の武将達を鍛え上げる道場。

その道場が建っている地点から・・・

ドゴオオオオオンッ！！

「ぬうおわあああああああああー！ー！ー！ー！ー！ー！
！！！！！！？」

ヒュウーン・・・キラン

作者こと清坂劍麻が空高く吹き飛び、星になっていた。

完！！

「つて終わらすなああああああ！！」

「ちよ、旦那！？ 張り切りすぎだつてば！！」

「何を言う佐助！！ たとえ組み手であろうと手を抜くは相手に失礼であろう！！」

「つとそんな会話をしている間に作者が落下してきましたつとミサカは報告します」

・・・何故作者が冒頭から吹っ飛ばされていたのかを簡単に説明すると、真田幸村との組み手を道場の外で行っていたら、幸村

の技『虎炎』をモロに喰らったからである。

「つゝかお館様いねえし!？」

「ちよつと!? 開始一話めから道場主がいなくてどういふ事よ!！」

猿飛佐助と御坂美琴がそう叫んだ通り、現在この場にお館様こと武田信玄はおらず、今何処にいるのかというと……

「ホツホツホ。久しぶりじゃのおシンちゃんや」

「お主も相変わらず元気そうだな、隼人」

『史上最強の弟子ケンイチ』に出てくる梁山泊にいた。

視点は道場に戻り……

「幸村殿!! 今一度お手合わせ願いたい!!」

いつの間にか復活した作者が幸村にそう言い、

「分かり申した剣麻殿!! この幸村ツ! 全力でお相手いたす!……!」

幸村があっさり承諾した。

「お二人さん。やるんだつたら道場内でやってくんな? どうせこの道場、ちよつとやそつとじゃあ壊れないんだからさあ」

佐助が言った通り、この道場、実は改築と増築を行っており、広の上に、材料の中に超合金ニューZ が使用されているのだ。それ故に、ちよつと大暴れしても壊れないのである。(改築及び増築した理由は、銀凧さん所の混沌学院の作者の感想の中に有りますので、そちらでご確認ください)

そして2人が道場内にて互いに向き合い、拳を構えた。武器は使わず、己が身体だけを使ってでの組み手であるからだ(武器を使つた組み手や全力勝負も有ります)

「参りますぞ、幸村殿!!」

「うむ! いざ尋常に……」

し出されていた事であろう。

それどころかこれが実戦で、幸村が二槍での攻撃をしていたら作者はミンチになってあの世に逝っていたであろう。

「だ、旦那・・・今の奴、普通なら死ぬからね・・・」

「も、もしかして私もそのうちやるの・・・組み手」

「まあお姉様も弟子扱いですからねつとミサカは答えます」

佐助が冷静なまま幸村にそう言い、美琴が青ざめながら言ったことを美己がこれまた冷静に答えた。

「そ、某・・・修行不足でござ・・・った・・・無念、ガクッ」・・・ちなみに作者はそんな事を言っただけで気絶していた。

第一幕 組み手は同じ技量の人とやりましょう(後書き)

・・・その頃、お館様はと言つと、

岬越寺秋雨「どうですか？ 私の入れた茶の味は」

信玄「うむ、うまい。見事な腕前であるな」

風林寺隼人「ふむ。また腕を上げておるのお」

梁山泊にて、茶を飲みながら縁談をしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9114x/>

～ 熱血！！ 武田道場！！ ～

2011年10月29日20時07分発行